

(5) ポスト結核をめざして

西 村 一 孝

(5) THE AIM WE MUST TAKE AFTER ELIMINATION OF TB

Kazutaka NISHIMURA

国立病院・療養所呼吸器グループは、参加施設54施設からなり、全国を網羅する。今までに行われてきた国立病院・療養所共同研究は、以下の3研究班に分かれ実施されてきた。

- A. 政策医療ネットワークを利用した結核予防・診断と治療・後遺症対策および疫学調査に関する研究（四元班）
- B. 国立病院・療養所呼吸器ネットワークを利用した肺癌に対する新しい診断・治療法と臨床評価法の開発（河原班）
- C. 政策医療ネットワークを利用したびまん性肺疾患、呼吸不全、希少肺疾患、肺循環（右心不全）に関する疫学・病態・診断・治療・予後に関する総合的研究（西村班）

また、現在整備されつつある呼吸器ネットワーク診療支援システムの目的は、1) 患者の登録データベースを作成し、疫学調査を行う。2) 希少肺疾患の登録を行い、診断と治療の実態調査を行う。3) 臨床生まれなケースの症例に対し、専門医に相談。4) 治験の被験者を募る。また、臨床治験の登録に利用する。5) 診断・治療の共通のガイドラインを利用する、などである。この目的達成のために、呼吸器疾患ネットワーク網（K-net）が造られた。中央サーバーを近畿中央病院に、結核サーバーを東京病院に、肺癌を道北病院に、びまん性肺疾患を愛媛病院に、呼吸不全を福岡東病院にそれぞれ配備した。結核サーバーは、a・結核実態調査のオンライン入力。b・横断的疫学データの抽出。c・耐性菌および合併症を持つ症例の治療相談。d・公費負担申請書等へのデータの書き出し。e・結核ワクチン等の臨床試験の被験者の抽出。肺癌サーバーは、a・症例のオンライン登録。b・横断的疫学データの抽出。c・費用対効果。びまん性肺疾患サーバーは、a・希少肺疾患のオンライン登録。b・VATS（胸腔鏡下肺生検）適用症例の登録。c・放射線専門医への画像の相

談。d・病理専門医への相談。e・横断的疫学データの抽出。呼吸不全サーバーは、a・HOT（在宅酸素療法）の予後追跡調査。b・在宅人工呼吸器療法の相談。c・NIPPV（非侵襲的陽圧換気）療法の症例登録と予後調査、などに応用する予定である。

このような班研究の意義は、1) 全国組織のため、大規模臨床研究が可能である。2) 国立病院・療養所の医療水準の向上に役立つ。3) 政策医療追及のためにはこの班組織は有益である。4) 大規模治験ネットワークの立ち上げが容易である、などを挙げることができる。これらを基礎にして、呼吸器ネットワーク組織としての活動と目標は呼吸器疾患に関する、a・実態調査。b・新しい診断法の開発。c・新しい治療法の確立。d・予後調査。e・診療ガイドラインの作成、などが考えられる。

最後に、ポスト結核の時代における、呼吸器ネットワークの政策医療に果たす役割として、対象になると考えられる疾患および課題を以下にあげる。

- 1) びまん性肺疾患（ほとんどが原因も治療も解明されていない）
- 2) 希少肺疾患（希少であるが故に専門的対応が必要）
- 3) 肺癌（国立病院・療養所での扱い件数が年々増加している）
- 4) 慢性閉塞性肺疾患（高齢者社会を迎え、患者数が年々増加している）
- 5) 呼吸不全（NIPPVなど新しいデバイスや在宅医療の推進と評価）

これらの疾患と課題など、われわれが活躍する分野は広がりつつあると考えてよい。

（平成16年1月29日受付）

（平成16年9月17日受理）

国立療養所愛媛病院（現：国立病院機構愛媛病院）Ehime National Hospital 副院長
Address for reprints: Kazutaka Nishimura, Vice Director, NHO Ehime National Hospital, 366,
Yokogawara, Touon, Ehime 791-0281 JAPAN
Received June 28, 2004
Accepted August 19, 2004